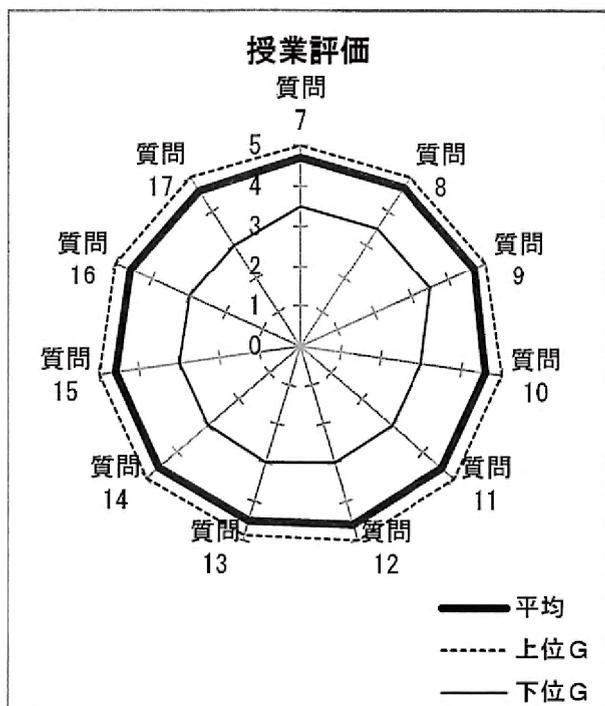


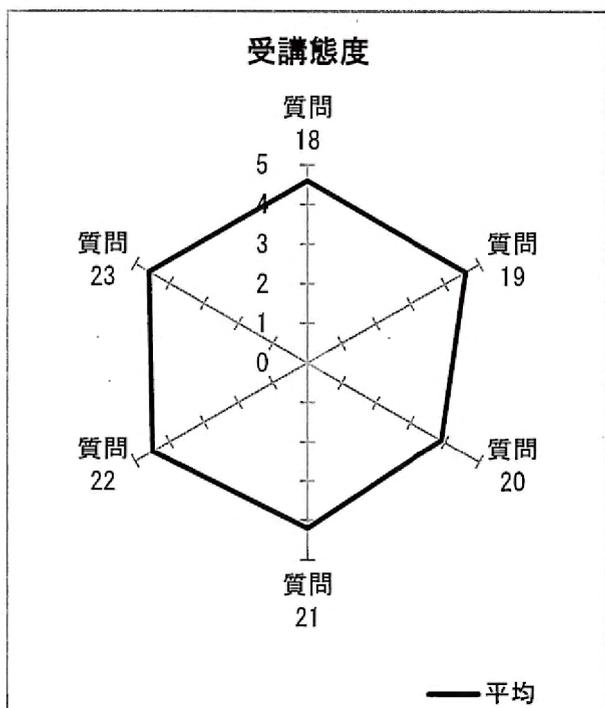
科目コード 403 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 椎名 雄一郎 即興演奏 I b



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	5.0	3.5
質問 8	4.7	5.0	3.5
質問 9	4.7	5.0	3.5
質問10	4.6	5.0	3.0
質問11	4.6	5.0	3.0
質問12	4.6	5.0	3.0
質問13	4.5	4.9	3.0
質問14	4.6	5.0	3.0
質問15	4.6	5.0	3.0
質問16	4.6	5.0	3.0
質問17	4.6	5.0	3.0
平均	4.6	5.0	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.9
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.6
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名 雄一郎	即興演奏 I b	11

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体として上位と下位グループがきれいに二重円となっていることが特徴である。上位グループについては質問 13 の「質問機会の確保と質問への適切な対応」が 4.9 で、それ以外は 8 人全員が 5.0 となっている。毎回課題を提示して、それについて授業内で実習する方法を進めたが、もう少し丁寧な対応が必要なことがわかった。

下位グループの評価についてはすべて 3 点代とあまり良くない。下位グループとされている学生は 2 人である。もう少し分析すると、2 人とも欠席回数が 2 回となっている。授業が毎回課題をこなしながら進めていくため、欠席があるとその分次の授業で、何をしてよいのかわからなくなることがあったと感じる。授業内にもう少し前回の復習をする時間を長くとるべきだったかとも感じる。

別の見方をすれば、この 2 人の学生は冒頭の 2 つの質問以外は、授業評価、受講態度を含めすべて真ん中の点数を付けている。このような場合、全体として授業内容に何かしら思うことがあったのであろうが、具体的にどのようなことを感じていたか、この評価から導くことは困難である。

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : 即興演奏 I b

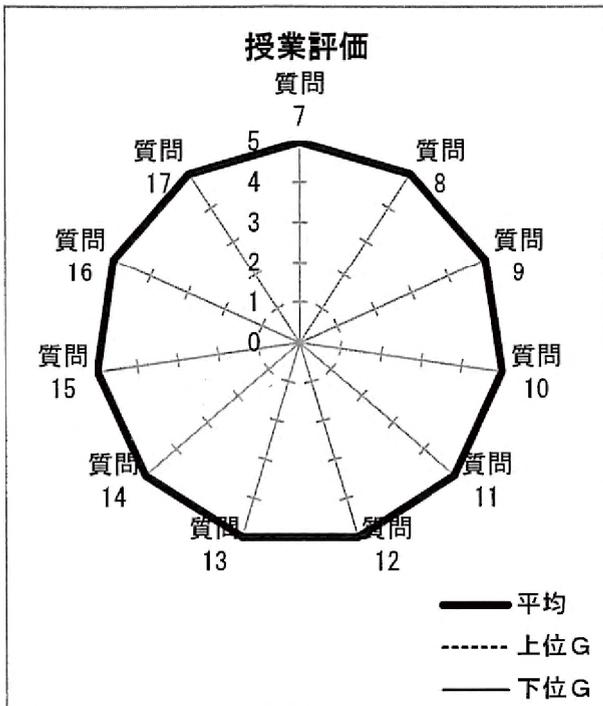
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

受講人数は 2017 年度より少し減少する分、よりきめ細やかに各学生の理解度を注視し、より満足度の高い授業を心掛けたい。

また毎回前回の授業を休んだ学生がいても、いなくても、復習する時間をある程度取りたい。

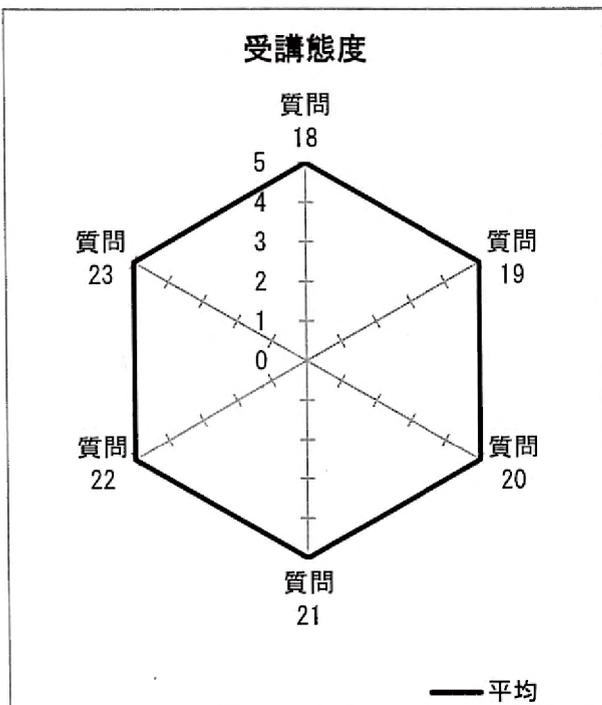
科目コード 404 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 持松 朋世 卒業研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	卒業研究	2

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

アンケートの内容とその応え方においては、この授業評価を有効に活用するのであれば、また何らかの判断基準とするのであれば、当科目は実技系の科目であるため学生個々の判断基準があると考えられ、学生がこのような回答に至った理由まで追求していく必要性を感じる場所である。

授業の実際と集計結果より当担当者が授業を行う中で、本評価は平均的なものと受け止める。ただし受講態度の結果においては、試験結果や受講生と担当教員の双方の評価基準が異なることによって、この結果より今後の授業運営の在り方を再度見直していく必要性も感じている場所である。また、授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われるので、今後も学生の様子を見ながら個々の修得状況を把握しつつ検討を重ねたい。

これらの結果から私自身は授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであるが、学生も受講態度を客観的に振り返る機会を設け、双方にとってより良い授業運営を行う為の検討を行う必要性を感じる場所である。

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：音楽表現・教育研究Ⅱa・b

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

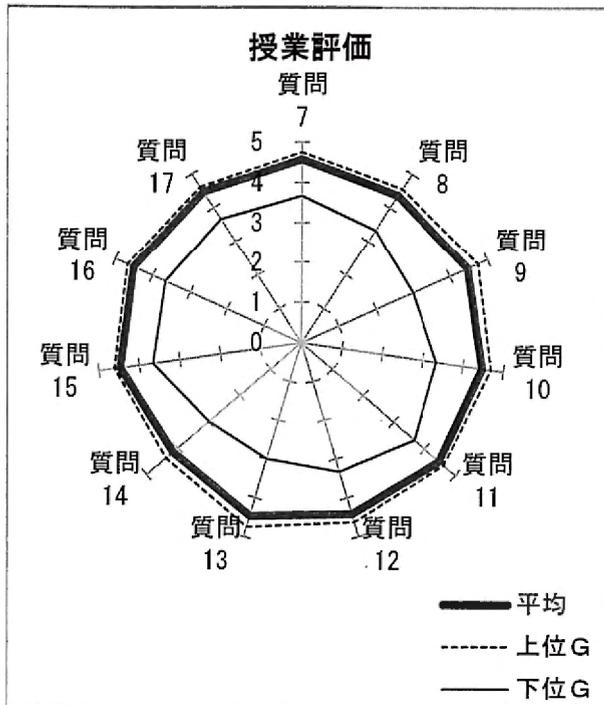
2018 年度も同科目や他にも主科実技・副科実技など声楽のレッスンを行うことになると思われる。本授業の受講者は声楽専攻の学生であるが、教職履修者でもある事から、レッスンが一方通行ではなく、授業の目的や、具体的な指導言や適切な指導言の引き出しを増やすなど、「主体的」でより教育現場での指導法に活かされるレッスンとなることを伝えていきたい。

また主科声楽の学生は 2018 年度は 3 年生 2 名、1 年生 2 名となることから、学年の枠を超えて次年度開講のオペラ実践に繋げていけるように、また学内外での様々な演奏会などのチャレンジにも挑戦できるような技能の修得を目指して共に励みたい。

実技指導においては教員の様々なアプローチが求められる。また指導内容と演奏とが一致する厳しさを常に心に留め、教員も専門分野への飽くなき追及や挑戦を図っていきたい。

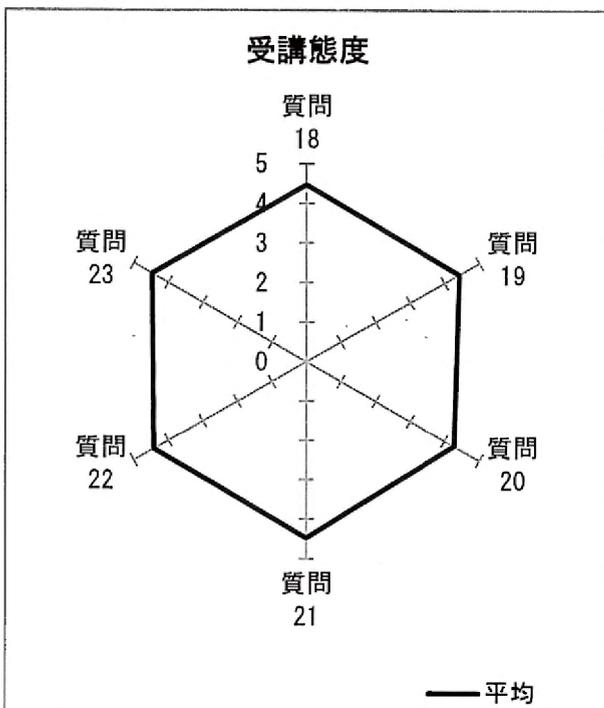
科目コード 405 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 指揮法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.8	3.7
質問 8	4.4	4.6	3.3
質問 9	4.5	4.8	3.0
質問10	4.5	4.7	3.3
質問11	4.5	4.6	3.7
質問12	4.4	4.6	3.3
質問13	4.5	4.8	3.0
質問14	4.2	4.4	3.0
質問15	4.5	4.6	3.7
質問16	4.5	4.7	3.7
質問17	4.5	4.6	3.7
平均	4.4	4.6	3.4

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤 豊	指揮法	20

2017年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体的に見て、平均値が4,5を上下している結果が出ているが、中には3,0の評価を与える学生がいる。理解度、その他に問題があるようである。指揮法は学生個人の理解度を査定するため他の学生の前で実習をさせなければならない。理論の確認やペーパーの試験などではそれらが確認出来ない。この世代の学生についていえば、人前で比較評価されることに嫌がる傾向にある。

実技レッスンなどはマンツーマンで指導し、評価もできるが、指揮法は指揮という専門性において個人レッスンがとても難しい。教職必修の科目であるので受講生も多い。人前でパフォーマンスすることについてのプレッシャーを取り除き、評価できる方法を模索しなければと思う。

II. 2018年度に向けての取り組み

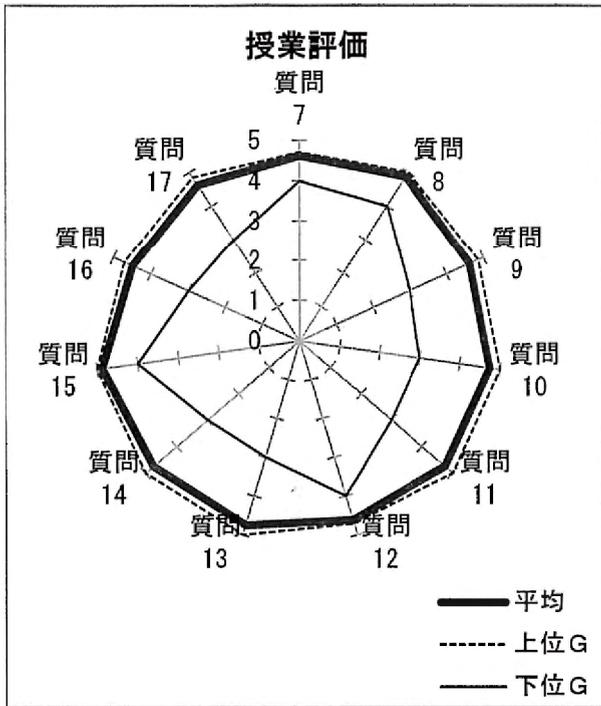
2018年度担当予定科目名 指揮法

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

私自身、今年度で退職、理論系の講義は今年度で終了する。ただ、指揮法のみは非常勤として担当する予定であるため、今年度後期の講義で上記の問題に取り組んでいきたいと思う

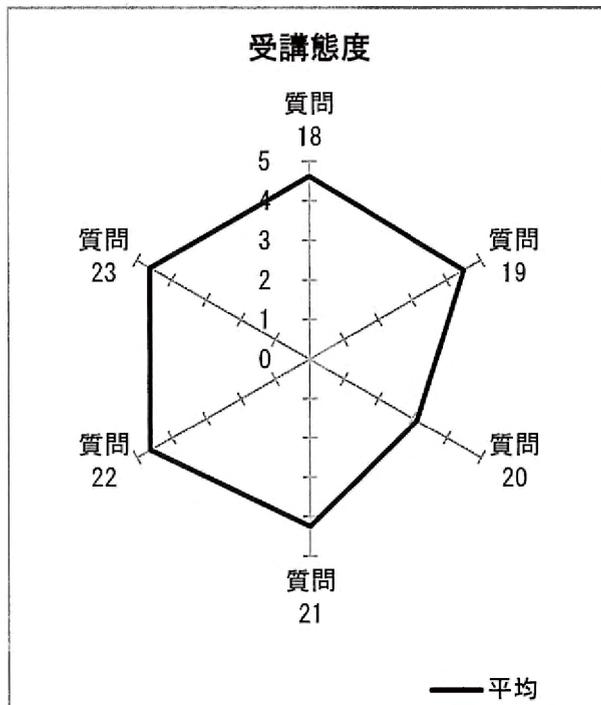
科目コード 406 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 ポピュラー作品研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.9	5.0	4.0
質問 9	4.6	4.9	3.0
質問10	4.8	5.0	3.0
質問11	4.8	5.0	3.0
質問12	4.6	4.7	4.0
質問13	4.8	5.0	3.0
質問14	4.8	5.0	3.0
質問15	4.9	5.0	4.0
質問16	4.5	4.7	3.0
質問17	4.6	4.9	3.0
平均	4.7	4.9	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	3.1
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	ポピュラー作品研究	8

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回でこの授業は閉講となるためか、1年生ばかりでなく高学年の受講者も多く、全体として活気のある授業となったように思う。内容的にも映画音楽に関する映像資料などを追加して充実を心掛けた。ただ、内容を若干盛り込み過ぎたため、鑑賞ばかりになってしまい、知識の習得という点では不十分な部分もあったように思う。

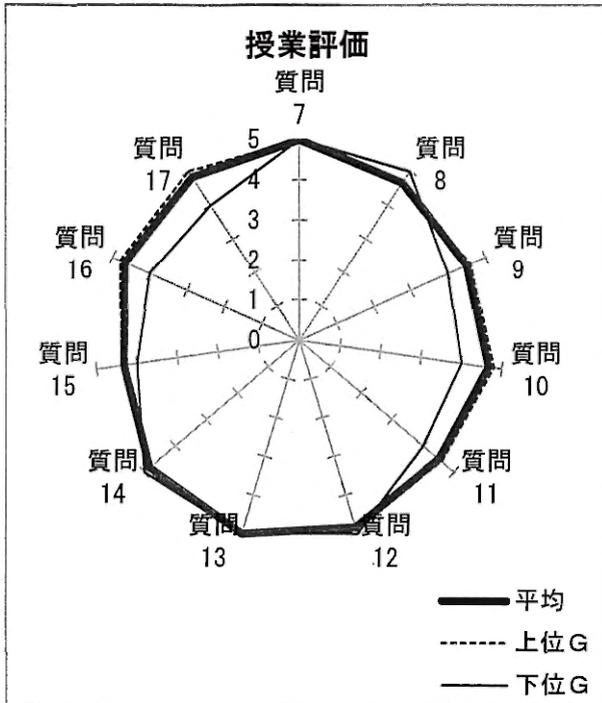
II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : 音楽基礎セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) 作品鑑賞系の授業としては、来年後期に開講される音楽基礎セミナーの中で5コマを担当する予定である。その中でポピュラー音楽についてのエッセンスを教授する予定であるが、いかにバランスよく内容を盛り込んでいくか、またより多くのジャンルやアーティストを紹介していけるかを模索したい。

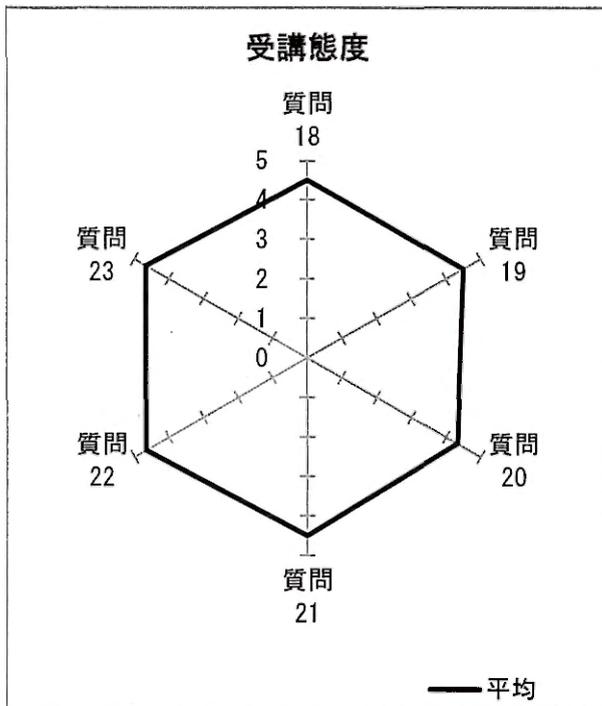
科目コード 407 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 吉田 峰明 音楽メディア研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	4.7	4.6	5.0
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問10	4.7	4.8	4.0
質問11	4.5	4.6	4.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.3	4.4	4.0
質問16	4.7	4.8	4.0
質問17	4.8	5.0	4.0
平均	4.7	4.8	4.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.5
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	吉田峰明	音楽メディア研究	6名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

平均値はいずれも4.0以上であることから、大きな問題はなかったと思う。「授業評価」中、あえて挙げるのであれば「(自分は) 授業を理解できたと思うか」の項目であろうか。この学期の6名のうち2名は転コースを前提とした学生で、前期授業を十分に踏まえていなかったためそのように思ったのかもしれない。私の方でももう少し配慮すればよかった。しかしながら、受講態度も申し分なく、私としてはとても満足のいく授業であった。今回の成果を次回以降に活かしていきたい。

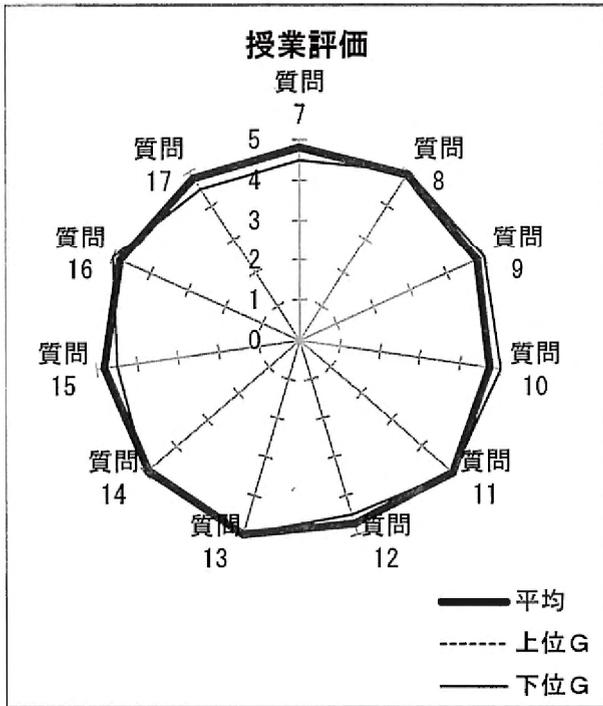
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：音楽メディア研究

2017年度と同じ科目ではあるが、継続してみたい。2018年度よりカリキュラムが変わり、メディア学習内容も若干の変化があるためである。学生たちの学習意欲と理解度を十分に配慮した授業としたい。

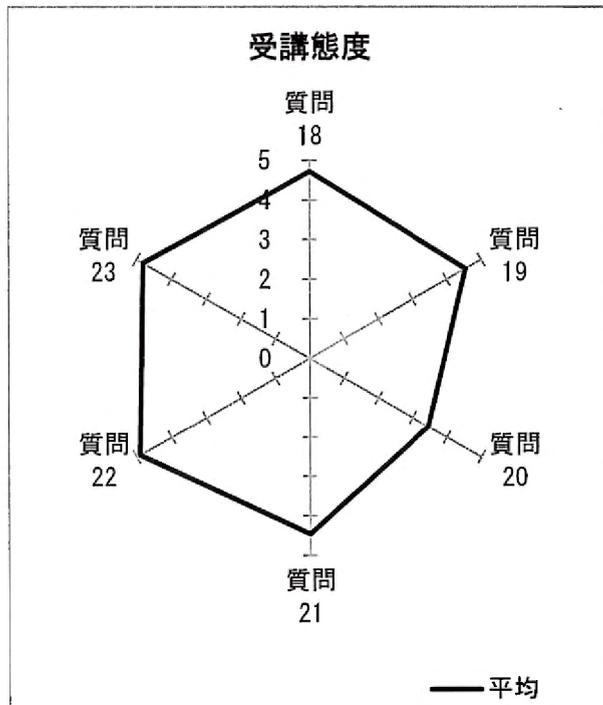
科目コード 408 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 古賀 幹敏 音楽療法各論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.5
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	4.7	4.8	4.5
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.8	4.9	4.5
質問16	4.8	4.8	5.0
質問17	4.8	4.9	4.5
平均	4.9	4.9	4.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	3.5
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	古賀幹敏	音楽療法各論Ⅱ	17名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体として高いポイントだと思える。また上位グループと下位のグループとのポイント差が少ないのが特徴かと言えよう。ただ質問9と11については、多少理解に苦しむポイントの乖離があると言えるのかもしれない。質問15での下位グループのポイントの低さは、授業内容に実技が含まれているため、実際の演奏が可能かどうかを学生自身で確認できるためのポイントではないかと思われる。

II. 2018年度に向けての取り組み

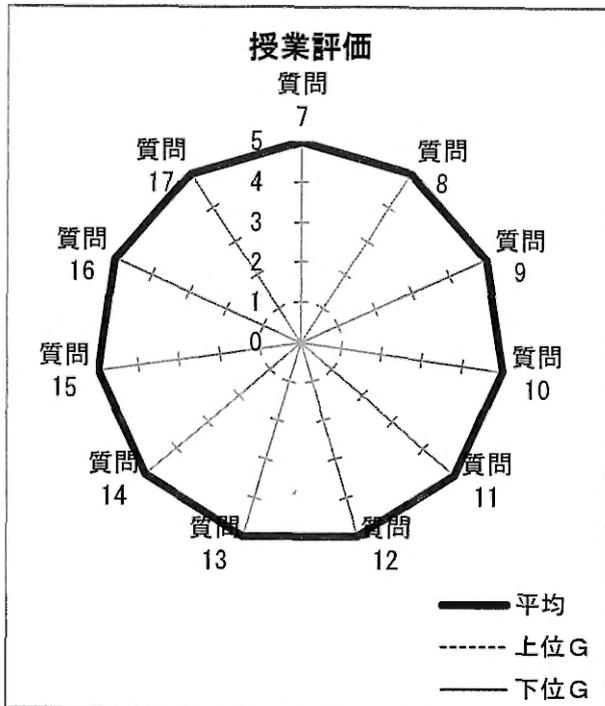
2018年度担当予定科目名：音楽療法各論Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の欠席回数のみが低い得点になっている。実技内容も講義に深く関係しているので、欠席に対する注意を講義の最後に行なうことや欠席の不利益について詳細に説明を付け加えたい。

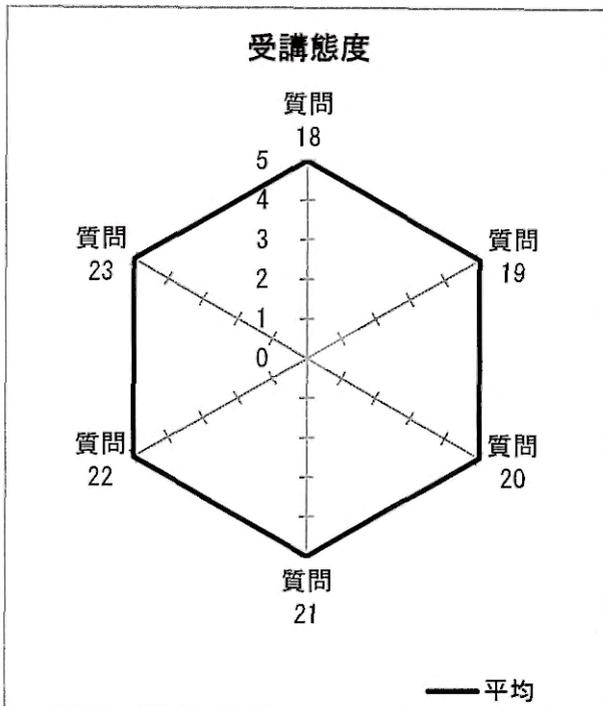
科目コード 410 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 三好 直英 アンサンブル



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	アンサンブル	6名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問7～17において平均値が5.0、質問18～23においては平均値が5.0であった。(上位G6名)
- ・前期を経てアンサンブル定期演奏会に向けて受講学生の意識がさらに高まり、それにともない習熟度もあがり、また演奏発表の場も多く実践的になったことからより理解度が上がったと感じる。
- ・アンサンブルという複数の人数で成立するものなので、全員が揃っての予習・復習が困難であったと考えられる。その中で学生は前期にも増して限られた時間の中で対処しそれを飛躍させたこと、また練習の創意工夫した点を非常に高く評価したい。
- ・アンサンブル授業の延長として第二回ホルンアンサンブル定期演奏会も盛会だった。

II. 2018年度に向けての取り組み

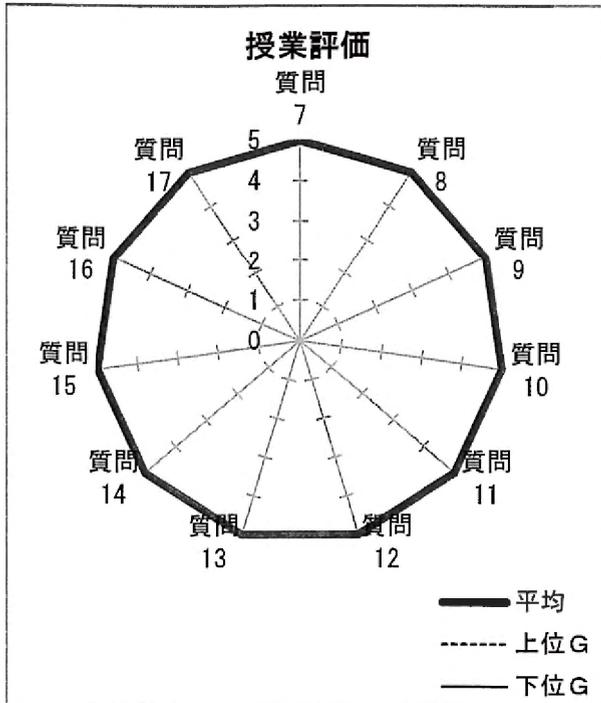
2018年度担当予定科目名： _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・さらにホルン専攻生として必要なレパートリーをさらに増やすとともに、新たなレパートリーの発掘、そして今後ともハーモニー楽器としてのアンサンブルのスキルを身に付けていけるようにつとめたい。
- ・また演奏の機会を増やしていくようにつとめていきたい。

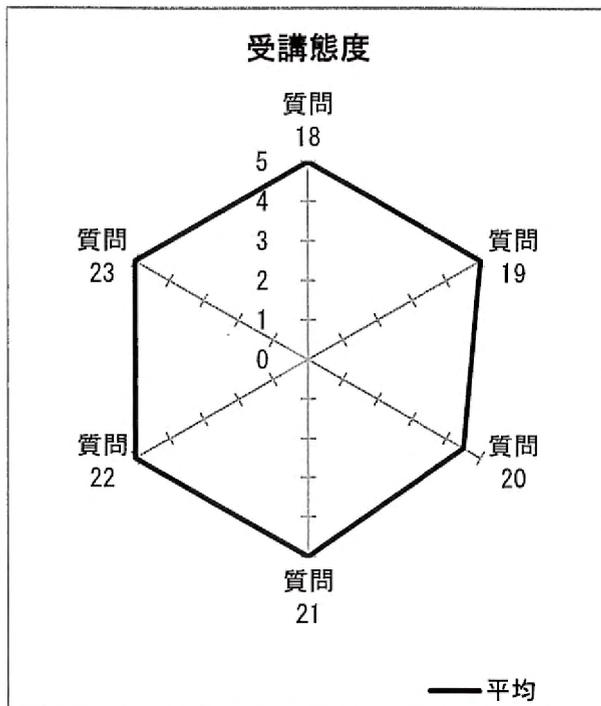
科目コード 411 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 碓井 貴美子 卒業研究



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7: 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8: 教員の授業時間遵守
- 質問 9: 教員の話し方
- 質問10: 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11: 教員の説明のわかり易さ
- 質問12: 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13: 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14: 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15: (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16: 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17: 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.5
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

- 質問18: (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19: 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20: 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21: 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22: レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23: 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	卒業研究	2人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

4年生最後の舞台に向けて気合の入る後期実技レッスンを学生と共に過ごせたことを大変うれしく感じております。一人は国立大学の大学院へと進学し、一人は社会人として音楽のお仕事に就くという将来の道筋もしっかり整えることができたことも、この4年間、レッスンを通して傍で見守りながら、学生たちと固い信頼関係を築き上げることができたご褒美のように思います。音楽は演奏するばかりでなく、メンタルを整えていくことも必要となります。本番に向けてのメンタルの準備、演奏技術の確固たる自信。この2つの問題を私は彼女たちと最高に良い状態に向けて毎時のレッスンで指導することができたと感じております。

以前より大変勉強熱心なこの2人の学生はこの4年生後期において、あるべき音楽表現を見事に音に託せるようにまで成長いたしました。何よりも自身らが音楽を続けていくことに強い使命感を持ち、さらに努力を重ねていきたいと卒業時に伝えてくれております。私にとっても学生たちにとっても、お互いが共に充実した時間を重ねられたと実感いたしております。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：卒業研究

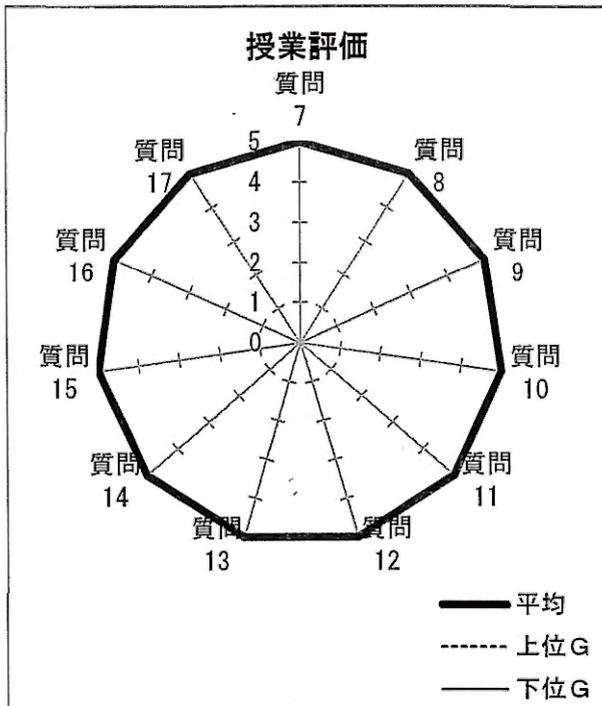
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度も卒業研究の科目を担当いたします。

卒業年度は特に大きな舞台に立つ機会に恵まれます。作品の規模も大きくなり、練習と自分とに向き合う時間が多くなります。学生が今必要としているアドバイスを的確に与えることが重要となりますので、個人個人の様子を細かく察知して、丁寧にわかりやすく指導していくことを心掛けてまいりたいと考えております。

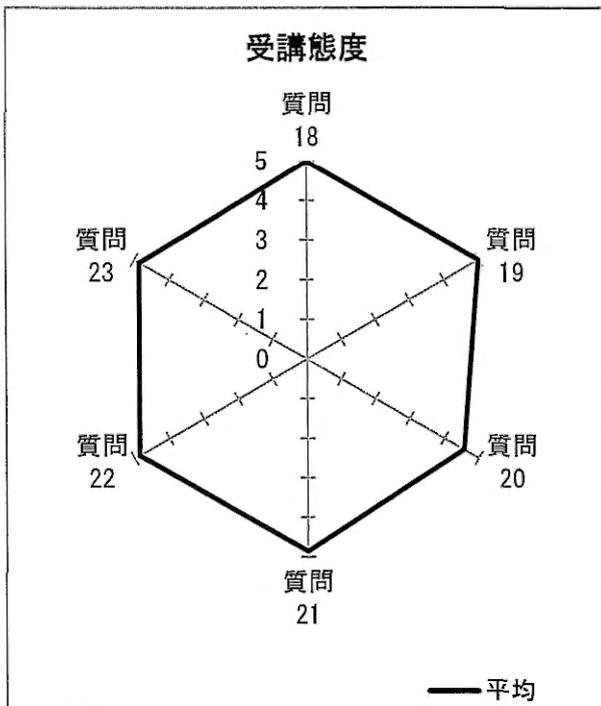
科目コード 412 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 草場 紀久子 アンサンブル



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.6
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	草場 紀久子	アンサンブル	17人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

フルート、クラリネット、サクソフォン、ホルン、金管の5つの部門でのグループを組んでの授業。授業評価、受講態度ともにほぼ満点の回答となったことから、各グループに専門楽器の教員が担当することによって、専門性の高い充実した授業が展開されていることがうかがえる。草場はフルートのグループ担当と、全グループの統括を行っている。日頃より週1回の専攻実技のレッスンを受けるほとんどの学生に、専攻生ではないが編成上参加すると望ましい楽器の学生が加わり、スタンダードな曲に取り組めるようになったのが、この充実度の高さに結びついている。また、休み時間、放課後など利用してよく合わせをしている。そのように、各グループが影響を与え合って効果を高めている。

II. 2018年度に向けての取り組み

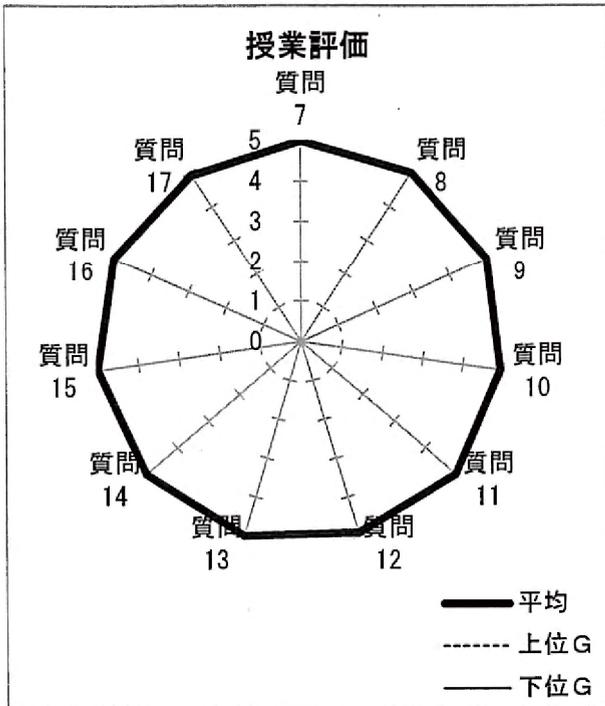
2018年度担当予定科目名：アンサンブル

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度は新たに金管アンサンブルを金管10重奏とし、よりアンサンブル効果の高い編成を組んでいる。また、外部からの演奏依頼、音楽学部が用意する演奏機会などでの各グループの本番演奏機会も確保したい。フルートグループでは、Voxmanのデュエットで古典の様式の理解や基礎的な奏法の確認をはかり、アンサンブルエチュードや楽曲等多様な教材をバランスよく使い、本人たちでいろいろなアンサンブルに取り組んでいける下地作りに取り組んでいる。ホルンアンサンブルは2年前から自主公演を行うようになった。またこの半期は2年ぶりに打楽器アンサンブルを組んでいる。全体に活発になってきたので、学生たちの意欲にこたえられえる環境を作っていきたい。

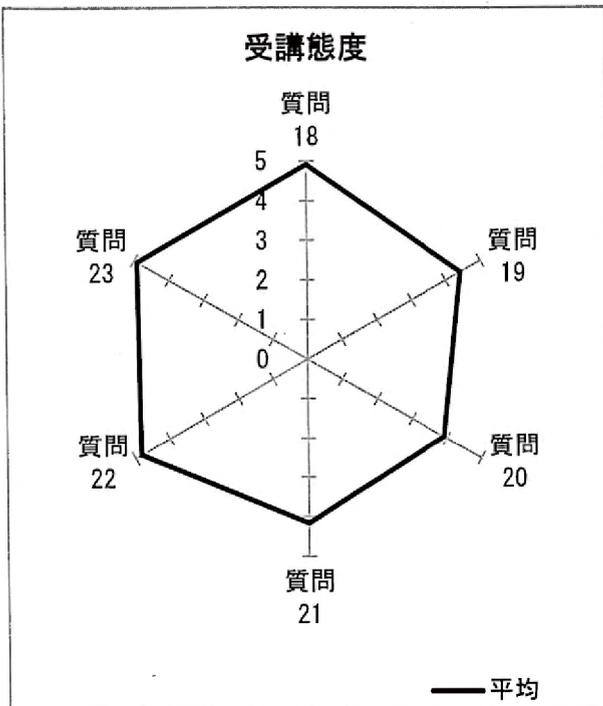
科目コード 414 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 持松 朋世 合唱 Ib



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	4.9	4.9	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	5.0	5.0	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	5.0	5.0	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	5.0	5.0	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.4
質問20	3.9
質問21	4.2
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	合唱 I b	12

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

アンケートの内容とその応え方においては、この授業評価を有効に活用するのであれば、また何らかの判断基準とするのであれば、当科目は実技系であり、さらに集団で行う科目であるため学生個々の判断基準があると考えられ、学生がこのような回答に至った理由まで追求していく必要性を感じるころである。

授業の実際と集計結果より当担当者が授業を行う中で、本評価は平均的なものと受け止める。ただし受講態度の結果においては、試験結果や受講生と担当教員の双方の評価基準が異なることによって、この結果より今後の授業運営の在り方を再度見直していく必要性も感じているところである。また「欠席回数」「授業の予習・復習」においての値が低かったため、それらにおいて受講者自身のやるべきことと、当科目は 1 年生科目である為今後の学習・受講状況に繋がるべく指導の必要性を感じた。

これらの結果から私自身は授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであるが、学生も受講態度を客観的に振り返る機会を設け、双方にとってより良い授業運営を行う為の検討を行う必要性を感じるころである。

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：合唱 I・II・III・IV a,b

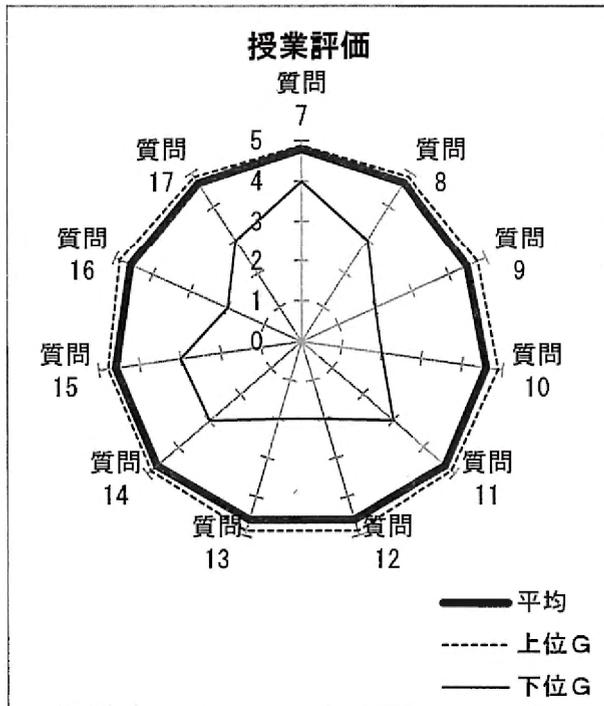
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018 年度は授業形態がカリキュラム改正に伴い、合唱 I・II・III・IV の a,b が一斉に実施される。よって 1 年生から 4 年生まで幅広く学年の枠を越えた生徒同士での双方向主体的な学び合いが可能となる。本授業は教員による指導、パートリーダー中心の学生間での運営による学び合いなどが行われ、将来教員免許取得や指導者となるべく学生の学びに相応しい授業となっていると考えられる。よってこれらを受講生に理解してもらい、より受講生が個々の学びを活かしたり、得た学びを他で活かせるような授業となることを心掛けたい。

実技指導においては教員の様々なアプローチが求められる。教員も専門分野への飽くなき追及や挑戦を図っていくべく、様々な観点からの研究を行っていきたい。

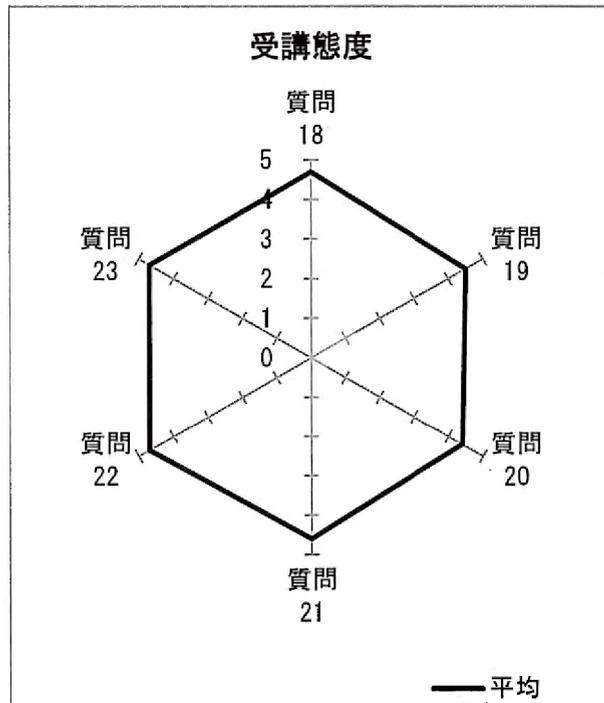
科目コード 416 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 対位法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.7	4.9	3.0
質問 9	4.5	4.8	2.0
質問10	4.6	4.9	2.0
質問11	4.7	4.9	3.0
質問12	4.6	4.9	2.0
質問13	4.6	4.9	2.0
質問14	4.7	4.9	3.0
質問15	4.6	4.8	3.0
質問16	4.6	4.9	2.0
質問17	4.7	4.9	3.0
平均	4.6	4.9	2.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	対位法	13

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

バッハのインヴェンションと平均律クラヴィア曲集を中心に据え、輪唱からフーガまでの授業を展開したが、その中で実際の対位法的楽曲を一人1パートずつ受け持って実際にピアノで演奏するということを今年新しく試みてみた。また、鑑賞曲もなるべく色々な時代の作品に触れられるように選択した。また、クラシックだけでなくさまざまなジャンルの対位法的楽曲を選択するよう配慮した。ただ、分析においては新しい用語が沢山出てくることや、モチーフの捉え方など専門的な知識が必要される場面が多々あり、これらをどう噛み砕くかの課題が残ったように思う。

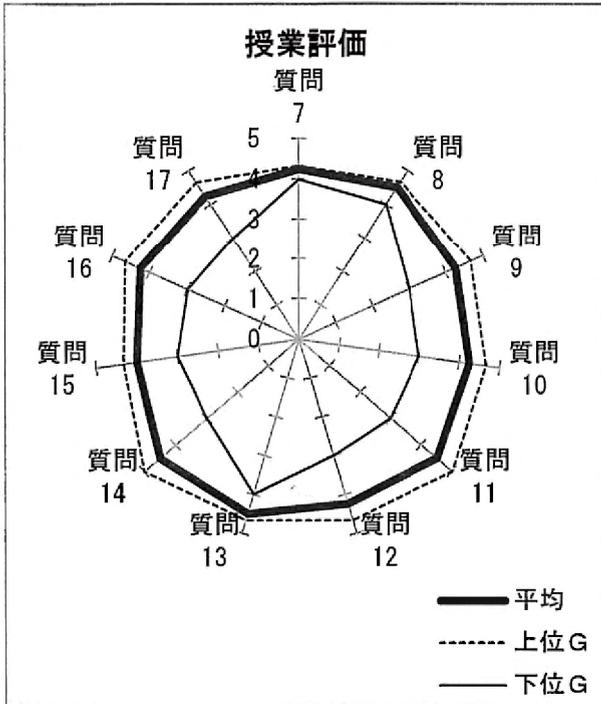
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： 対位法

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)
 分析を授業中だけでなく、さまざまな課題を用意することで自主的に取り組んでいけるよう配慮したい。また楽譜だけでなく、耳からも対位法的な面白さが聴取できることとなるよう、鑑賞曲についても追加・厳選していく予定である。

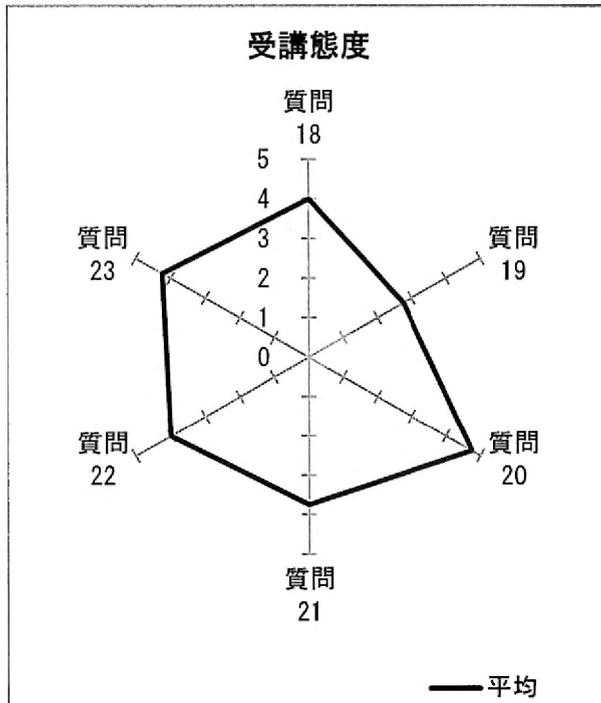
科目コード 418 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 古賀 幹敏 臨床医学各論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.3	4.0
質問 8	4.5	4.7	4.0
質問 9	4.3	4.7	3.0
質問10	4.3	4.7	3.0
質問11	4.5	5.0	3.0
質問12	4.3	4.7	3.0
質問13	4.5	4.7	4.0
質問14	4.5	5.0	3.0
質問15	4.0	4.3	3.0
質問16	4.3	4.7	3.0
質問17	4.3	4.7	3.0
平均	4.3	4.7	3.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.0
質問19	2.8
質問20	4.8
質問21	3.8
質問22	4.0
質問23	4.3
平均	3.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	古賀幹敏	臨床医学各論	8名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

最終学年での医学各論である。新しいカリキュラムへの移行も視野に入れ、従来の講義内容に解剖・生理学の内容をかなり深めた講義になった。このため講義内容については、動画や写真などを用いて学生の理解に配慮した。しかし、講義内容の特質のせい、項目によって学生の理解に大きな差が出てきたようである。特に質問9, 10, 11, 12および14, 16, 17にその傾向が顕著に現れていると思える。上位グループと下位グループの表の差がそれを示していると思える。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：臨床医学各論II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の受講態度の19, 21の低さが気になる。授業内容も各項目がリンクして行かないようなので、予習復習が授業内容の理解に大きくかかわってくる。このため、予習復習が見られない学生には19での得点が極端に低くなっていると思われる。受講に当たって授業内容の予習復習のポイントを指摘するように努めたい。